

検討会による検討経過について

1. 検討の背景

- ・平成 24 年 11 月に縄文杉大枝の落枝の危険性が明らかにされ、その後デッキの一部撤去が決定されたことを受けて、代替デッキの整備を含む「縄文杉周辺の再整備」が短期的な検討課題として検討の中心となった。
- ・一方、平成 25 年度の遺産登録 20 周年記念シンポジウムの結果や地域連絡会議及び科学委員会での議論を踏まえて、ROS など利用の管理のあり方や提供する利用体験の“質”についての検討が、中長期的な検討課題として認識された。
- ・検討にあたっては、短期的な検討課題である「縄文杉周辺の再整備」が中長期的な検討課題である「適正利用とその管理のあり方の決定」に密接に関連する事項であることを踏まえ、関連する内容についてもセットで検討することに留意した。

2. これまでの検討状況

1) 担当者レベルでの検討

- ・現在までに計 9 回実施。
- ・ワークショップ形式で実施。
- ・縄文杉周辺の再整備、地域との調整プロセス、山岳部トイレのあり方、ガイド認定制度、事前レクチャーの導入、提供する利用体験の“質”など、山岳部の利用のあり方について幅広く検討。

2) 地域連絡会議レベルでの検討

- ・現在までに計 4 回実施。
- ・地域連絡会議のなかの議事として通常の会議形式で実施。
- ・担当者レベルの検討結果を地域連絡会議としてオーソライズすることが主な目的となっており、現時点では主に縄文杉周辺の再整備について検討。
- ・ただし、ROS の検討など利用のあり方全般に関する大きな方向性を示し、担当者レベルの検討会での検討を促進する役割も果たしている。

3) 地域との調整

- ・「縄文杉周辺の再整備」について、屋久島町議会、区長連絡協議会及び屋久島観光協会との意見交換を実施。今後も継続して実施。
- ・検討会での議論や検討結果については、関係行政機関の意見として、山岳部利用対策協議会等の利用に係る協議会での議論に反映。

3. 検討結果

- ・「縄文杉周辺の再整備」として、撤去されたデッキの代替デッキを設計（図 1）。
- ・既存デッキやケーブリング措置への対応を念頭に、提供する利用体験の“質”を考慮した「縄文杉周辺の再整備」について検討中。